

## ◆ 平成28年度活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 エンハンスネイチャー荒川・江川

19B-01

代表者：理事長 小川早枝子

URL :

---

### 1. 活動が必要とされた状況

私たちの活動地江川下流域の「サクラソウトラスト地」には絶滅危惧の生き物が50種以上生息しており、さらに「埼玉県希少動植物の種の保護に関する条例」に指定されている植物が2種類自生しています。この貴重な絶滅に瀕している自然を次世代へ伝え、荒川中流域へと広げていくために、三つ又沼ビオトープで行われている「荒川の草花を育てるプロジェクト」への協同、また荒川太郎右衛門自然再生事業でのサクラソウトラスト地を「種地」として守り育てる重要性は高まっています。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

9月から11月までは週2回以上の外来植物駆除作業に励みました。10月29日にはトラスト地近くのグローバルコーティング(株)の全社員(35名)とトラスト地隣接河川区域のセイタカアワダチソウ抜きを行いました。11月からは原野の植物たちのためにヨシ原の草刈り作業、12月11日には上尾市、埼玉大学等(70名)の協力で刈ったヨシや草の運び出しを行いました。続いて野焼き作業。1月には冬鳥たちのために水田んぼを作るなどを行い、延べ400名以上のボランティアで3月末までに冬作業を終わらせることができました。「荒川の草花を育てるプロジェクト」への協同としてノハナショウブやチョウジソウを初めとした希少種の増殖活動を行いました。また、増殖したサクラソウ1,000株を原野に移植しました。



### 3. 活動の成果

トラスト地内と周辺の外来種は激減し、冬作業のヨシ刈り、野焼き、水田んぼ作り等も無事終わりました。水田んぼは荒川中流域の代表的な野鳥「イカルチドリ」をはじめとした越冬鳥で賑わい、3月にはニホンアカガエルの産卵が行われました。

今年も増殖したノハナショウブやコオニユリなどの希少植物を三つ又沼ビオトープに移植することができます。このように江川下流域の生物多様性を維持し、さらに生態系を広げてゆく活動を推進することができました。

### 4. 今後に残された課題

私たちの活動地周辺には相変わらず耕作放棄地が増える一方です。この耕作放棄地には外来種が広がるばかりで、高齢化・農業後継者不足によるものです。私たちがこれら周辺の外来植物を駆除し、膨大な冬作業を行わなければ、サクラソウトラスト地の貴重な自然は維持できません。私たちの活動は厳しさを増しています。さらにはボランティアの育成も急がれます。厳しい状況のサクラソウトラスト地の自然を守る活動を継続するためには、さらに多くのボランティアの協働と、あらゆる機関からの支援を期待してやみません。